


広報

ふたば

2014
12月号
災害版No.43



表紙写真：子どもたちへ希望のメッセージ…渡邊一成選手が来校





▲写真前列右より、高倉伊助さん、木幡一夫さん、佐々木議長、伊澤町長、石井義幸さん、渡辺浩美さん、根本勇さん。
後列右より横山友絵さん(株・アーデントスタッフ)、豊福隆志さん(A I U損害保険・株)、橘内宏明さん(大同生命保険・株)、田中淑恵さん(国立音大教授)、木幡智清さん、細井戸大成さん(日本動物病院協会)

平成26年度双葉町表彰式

— 永年の功績をたたえて —

功勞表彰

11月3日、町政の進展に多大な貢献をされた方々を称えるため、平成26年度双葉町表彰式がいわき事務所大会議室で行われました。
式では、伊澤史朗町長の式辞に続いて、功勞表彰として5人の方に表彰状と徽章が、4人の方に永年勤続表彰が、2人と3団体に感謝状が贈られました。続いて、佐々木清一町議会議長、坂本栄司県議会議員が祝辞を述べられました。また、受賞者を代表して石井義幸さんが謝辞を述べられました。また、表彰された方々は次のとおりです。

◆ 永年にわたり双葉町消防団員として地域の安全・安心と福祉向上に尽くされた功績顕著

石井 義幸様 (三字)
いわき市居住

- 消防団分団員 25年7月
- 消防団庶務分団長 1年1月
- 消防団技術分団長 4年8月
- 消防団副団長 1年
- 消防団長 1年3月

◆ 永年にわたり双葉町消防団員として地域の安全・安心と福祉向上に尽くされた功績顕著

渡辺 浩美様 (三字)
福島市居住

- 消防団分団員 30年7月
- 消防団訓練分団長 2年4月

◆ 永年にわたり双葉町消防団員として地域の安全・安心と福祉向上に尽くされた功績顕著

木幡 一夫様 (羽鳥)
白河市居住

- 消防団分団員 26年
- 消防団技術分団長 4年

◆ 永年にわたり双葉町消防団員として地域の安全・安心と福祉向上に尽くされた功績顕著

高倉 伊助様 (浜野)
東京都居住

- 消防分団員 31年

◆ 第17回アジア競技大会自転車競技の男子チームスプリントで銅メダル、男子ケイリンでは銀メダルを獲得する好成績を挙げた功績顕著

渡邊 一成様 (新山)

永年勤続表彰

◆ 多年にわたり双葉町消防団員として消防活動に寄与

根本 勇様 (寺松)
埼玉県居住

消防団員 25年

◆ 多年にわたり双葉町消防団員として消防活動に寄与

井戸川 貴一様 (長塚二)
茨城県居住

消防団員 25年

◆ 多年にわたり双葉町消防団員として消防活動に寄与

天野 博隆様 (山田)
相馬市居住

消防団員 25年

◆ 多年にわたり双葉町消防団員として消防活動に寄与

千代田 孝史様 (羽鳥)
千葉県居住

消防団員 25年

感謝状

◆ 双葉町財政調整基金に多額の金員を寄附

公益社団法人日本動物病院協会

会長 **細井戸 大成様**
東京都

◆ 双葉町ふるさと応援基金に多額の金員を寄附

木幡 智清様
いわき市居住

◆ 双葉町財政調整基金に多額の金員を寄附

公益財団法人

全国法人会総連合様
大同生命保険株式会社様
AIU損害保険株式会社様
郡山市

◆ ふたばっ子教育基金に多額の金員を寄附

(株)アーデントスタッフ
代表取締役

野口 正一様
神奈川県

◆ 町立学校にランドピアノを寄附
国立音楽大学・大学院
教授 **田中 淑恵様**
東京都



▲ 受賞者を代表して謝辞を述べられる石井義幸さん





町民の皆さまへ

双葉町にとって今年を本当の意味での「復興元年」の年とするべく、この一年、町が抱える様々な復興への課題に全力で取り組んでまいりました。

4月に11人で再開した町立幼稚園、小中学校では現在、16人の子どもたちが元気に学んでおり、11月8日には、梅檀（せんだん）祭が行われ、子どもたちが日頃の学習の成果を見事に発表し、感動的な発表会となりました。

次に、「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」については、これまで双葉町復興推進委員会においてご議論いただき、10月29日に中間報告をいただきました。この中間報告に対する町民の皆さまからの意見公募を、今月14日まで行っておりますので、町民の皆さまからの率直なご意見をお寄せいただきたいと思います。さらに、「双葉町津波被災地域復旧・復興事業計画」についても、津波被災地域復興小委員会からの中間報告が同日提出され、両竹、浜野地区の皆さまへの説明を行いました。今後、町民の皆さまのご意見を反映させながら、それぞれの委員会で引き続きご議論いただき、双葉町の復興の絵姿を具体化していきたいと考えています。

また、復興公営住宅の整備については、郡山市富久山町地内に、町民の方が入居する団地としては初めての八山田団地が完成し、11月7日に入居者に対する鍵引渡し式が郡山市内で行われました。今回の復興公営住宅は、原発被災町民向けの

県営復興公営住宅としては第一号であり、そこに双葉町民の方が入居できる運びとなったことは、避難者が生活再建に向けた第一歩を踏み出す大きな機会となるものであり、これにより安心した暮らしが少しでも取り戻せることを願っています。郡山市のほか、いわき市、南相馬市、白河市など県内各地で整備される復興公営住宅の早期完成に向けて、引渡し式の中で私から、国、県をはじめとする関係機関の一層のご尽力を強くお願いいたしました。

さて、中間貯蔵施設への対応については、地権者説明会以降、地権者への十分な理解が進んでいるとは言えず、また、地権者説明会に出席した方が、全体の半数にも至っていないことから、10月23日に大熊町とともに環境省に対して、①地権者に丁寧な説明し、地権者の理解を得られるようにすること、②説明会に出席されなかった地権者に対して、早急に説明を行うこと、の2点を強く申し入れました。国に対して地権者への丁寧な説明を、引き続き強く求めてまいります。双葉町を取り巻く環境は、来年も厳しい状況が予想されますが、双葉町の復興を前進させ、町民の皆さまが希望の持てる生活環境が整うよう、様々な課題に全力で取り組んでまいります。

結びに、今年一年間、双葉町民に対しご支援いただいたすべての皆さまに厚く御礼を申し上げますとともに、町民の皆さまにおかれましては、ご壮健にて新年をお迎えになられますよう心よりご祈念申し上げます。

双葉町長 伊澤 史朗

福島県営復興公営住宅

鍵引き渡し式

福島県が郡山市に整備を進めていた復興公営住宅「日和田団地」と「八山田団地」がこのたび完成し、11月7日、日和田団地前の駐車場において、鍵の引き渡しが行われました。式では、佐藤雄平福島県知事が「住宅整備を福島県の最重要課題として全力で進めている。入居者が安心して暮らせるように努めていきたい」と式辞を述べられました。

伊澤史朗町長は「待望の復興公営住宅が完成し、入居ができる運びとなったことは、避難者が生活再建に向けた一歩を踏み出す大きな機会となるものです。郡山市のほか、今後、いわき市、南相馬市、白河市など県内各地で整備される復興公営住宅の

早期完成に向けて、一層のご尽力をお願いしたい」と祝辞を述べました。続いてテープカットが行われ、復興公営住宅の完成を祝いました。また、佐藤知事から富岡町の代表の方々と、双葉町の入居者を代表して佐々木実さん（長塚一）に住宅の鍵が手渡されました。

引き渡し式には入居を予定している町民の方も参加し、「大変うれしい」「気持ち新たにこれからの人生を大切にしていきたい」「感謝している」などと喜びの声が聞かれ、晴れやかな笑顔をみせていました。八山田団地には20世帯の双葉町民の方々が入居する予定です。



▲テープカットを行う佐藤県知事(中央)伊澤町長(左)、入居者代表佐々木さん(右)



▲佐藤知事から住宅の鍵を受け取る佐々木さん

温かいご支援をありがとうございます

▶11月6日、滋賀県長浜市「福島県双葉町を支援する会」より義援金をいただきました。



11月12日、公益財団法人ブルボン吉田記念財団様から「ドナルド・キーン著作集全10巻」他をご寄贈いただきました。◀

アジア大会 メダリスト 渡邊一成選手が いわき事務所、双葉町立学校を訪問



▲伊澤町長から功労表彰を受ける渡邊選手

第17回アジア競技大会自転車競技で銀と銅の2つのメダルを獲得した渡邊一成選手が11月13日、いわき事務所を訪問し、戦績を報告されました。伊澤史朗町長からは、栄光を称え、双葉町功労表彰と徽章が贈られました。

伊澤町長と懇談後、双葉町立学校を訪問し、渡邊選手から子どもたちのために使ってくださいと伏見康弘中学校長に支援金が贈呈されました。

引き続き、児童、生徒との交流会が体育館で開催されました。渡邊選手のあいさつの後、子どもたちからの質問コーナーでは、小学生から「小学生の時の夢は何でしたか」「競輪を始めたきっかけは」との質問があり、中学生から



は「夢を追い続けている中で挫折はありましたか。挫折をした時にはどのようにして立ち直りましたか」「メダルを取ったときにはどんな気持ちでしたか」「これからの夢や希望を教えてください」との質問がありました。

渡邊選手は自分の好きなことを一生懸命やることや夢を持つことの大切さ、諦めずにチャレンジすること、挫折したときには気持ちを切り替えることが大事である一つひとつ丁寧に答えていました。また、「次の目標はオリンピックやワールドカップでメダルを取ること、そしてこれからも応援してくれる皆さんにうれしい報告をすることがこれからの目標です」と話されていました。



平成27年度 双葉町職員（社会人）採用候補者試験 受 験 案 内

- 受付期間 平成26年12月1日（月）から平成26年12月25日（木）まで
- 試験日 平成27年1月21日（水）午前9時～午後5時の予定

- ・受付は、月曜から金曜日の執務時間内（午前8時30分～午後5時15分）に行います。
※祝日は除く
- ・郵送による申込書提出の場合は、平成26年12月24日までの消印有効。
- ・申込用紙は、全職種について双葉町役場いわき事務所総務課（2階事務室）にて交付します。また申込書の郵送も可能です。（郵送での請求方法は、下記「6、受験手続及び受付期間」を参照してください。
- ※申込書の提出先は、双葉町役場いわき事務所総務課となります。郡山支所及び埼玉支所では受付できませんのでご注意ください。
また、申込用紙には添付する書類がありますので、早めに手続きをお願いします。



1 試験職種と採用予定人員

職 種	行 政 職	土 木 職	建 築 職	保 健 師
採用予定人員	若干名	若干名	若干名	若干名

2 受験資格

【共通】民間企業等における職務経験を5年以上有する方、または青年海外協力隊等における活動経験を2年以上有する方（学歴は問いません）

行 政 職	昭和40年4月2日から昭和60年4月1日までに生まれた方
土 木 職	昭和45年4月2日から昭和60年4月1日までに生まれた方
建 築 職	昭和45年4月2日から昭和60年4月1日までに生まれた方
保 健 師	昭和45年4月2日から昭和60年4月1日までに生まれた方で保健師免許を有する方または平成27年4月1日までに取得見込みの方

※ただし、次の各号のいずれかに該当する者は受験できません。

- ①日本国籍を有しない者
- ②成年被後見人または被保佐人（準禁治産者を含む）
- ③禁固以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで、またはその執行を受けることがなくなるまでの者
- ④本町職員として懲戒免職の処分を受け、当該処分の日から2年を経過しない者
- ⑤日本国憲法施行日以後において日本国憲法またはその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、またはこれに加入した者

3 試験の方法及び内容

試験職種	試 験 内 容		
行政職	(ア)	論文試験	論理性、表現力を見る
土木職	(イ)	口述試験	個別面接による人物評価
建築職	(ウ)	身体検査	医師発行の身体検査書を提出
保健師			

4 試験の期日・場所及び発表

区分	期日	場所	合格発表
論文試験	平成27年1月21日(水) 午前8時30分から午前10時	双葉町役場 いわき事務所	2月上旬
口述試験	平成27年1月21日(水) 午前10時30分から	双葉町役場 いわき事務所	2月上旬

なお、受験者数によっては、論文試験の日程を変更する場合があります。

5 合格者の採用

- 合格者は採用候補者名簿に記載され、平成27年4月1日以後欠員が生じた都度採用されます。(この採用候補者名簿の有効期限は原則として、1年間です)
- 例えば、平成27年4月1日付けで採用された場合は、最低でも平成27年9月30日までの期間は条件付職員として役場の行政事務補助員として業務に就いていただき、適性を判断した後各課に正職員として配属になります。したがって、正式採用は、平成27年10月1日以後になります。また、この条件付採用職員の期間に役場職員として相応しくないと判断された場合は、正式採用されない場合がありますのでご留意願います。

(注) 受験者本人並びに第三者に関わらず、採用を有利に運ぶ目的をもって便宜を図るための行為をした場合は、受験資格を失います。また、採用後この事実が明らかとなった場合は、採用が取り消されます。

7 試験結果の開示

試験の結果については、双葉町個人情報保護条例第17条第1項の規定により、口頭で請求できます。ただし、電話、はがき等による請求では開示できません。受験者本人であることを明らかにする顔写真入りの書類(運転免許証、旅券等)を持参のうえ、受験者本人が直接、双葉町役場いわき事務所総務課へおいでください。

開示請求できる者	開示内容	開示期間
受験者	総合得点・順位	合格者発表日から1カ月間

[問い合わせ先]

〒974-8212

福島県いわき市東田町二丁目19-4

双葉町役場いわき事務所 総務課 行政係

☎0246-84-5201

6 受験手続及び受付期間

(1) 申込用紙の請求

※申込用紙は、双葉町役場いわき事務所総務課で交付します。郵便により申込用紙を請求する場合には、封筒の表に「職員採用試験申込用紙請求」と朱書きし、120円切手を貼った宛先明記の返信用封筒(角形2号:240^{ミリ}×332^{ミリ})を必ず同封し、双葉町役場いわき事務所総務課へ郵送してください。

※郡山支所及び埼玉支所での用紙の交付及び郵便請求による申し込みはできません。

なお、インターネットから出力できる環境がある場合は、町ホームページから申込用紙をダウンロードして使用することもできます。

【提出書類】

- 提出期限：平成26年12月25日(木)
⇒職員採用試験申込書、履歴書(市販のもの※必ず写真を貼付)、誓約書
- 提出期限：平成27年1月15日(木)
⇒面接カード、戸籍抄本、健康診断書

(2) 申し込みの方法

- 申込用紙に必要事項を記入して、双葉町役場いわき事務所総務課へ提出してください。申込書を郵送する場合は、封筒の表に「職員採用試験申込」と朱書きし、82円切手を貼った宛先明記の返信用封筒(長形3号:120^{ミリ}×235^{ミリ})を必ず同封してください。申込書は必ず簡易書留で郵送してください。
- 受験票を受領したときは、最近6か月以内に撮影した本人の写真(上半身、脱帽、正面向き、縦6cm×横4.5cm)1枚を写真欄に貼って受験当日必ず持参してください。(受験票がない場合、又は受験票に写真が貼っていない場合は受験できません)

(3) その他

- 受験の際は、黒のボールペン又は万年筆、「HB」の鉛筆と消しゴムを持参してください。これ以外の筆記用具は使用できません。また、昼食は受験者各自で用意願います。
- 試験当日に自家用車で来られる方は、第一駐車場を利用してください。

電車を利用される方は、常磐線「植田駅」で降りてください。いわき事務所までは徒歩5分くらいです。

臨時福祉給付金 子育て世帯臨時特例給付金のお知らせ

臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金は、平成26年4月からの消費税率の引上げに伴い、所得の低い方や子育て世帯の家計への影響を緩和し、消費の下支えを図るために給付するものです。
給付金の対象となる可能性のある方に、7月下旬から9月上旬に申請書とご案内を郵送しております。

○受付(申請)期間について

- ・平成26年12月26日(金)で終了いたします。
※郵送の場合は、当日消印有効といたします。



○給付金の給付決定について

臨時福祉給付金	子育て世帯臨時特例給付金
平成26年度町民税が非課税の方が給付対象です。(町民税が課税されている方の扶養親族等は除きます。)	平成26年1月分の児童手当受給者で、平成25年分の所得が児童手当の所得制限限度額未満の方が給付対象です。
※住民税について未申告の方は、対象となる方(給付対象)か判断できませんので、申告が必要です。	

○臨時福祉給付金が優先されます。

- ・臨時福祉給付金、子育て世帯臨時特例給付金の両方の対象となる方は、臨時福祉給付金が優先されます。

○給付金の送金について

- ・事務処理上、申請書受理後2~3カ月を要しますのでご了承願います。

【臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金についての問い合わせ先】

健康福祉課 ☎0246-84-5205

【町民税についての問い合わせ先】

税務課 ☎0246-84-5206

個人事業税の課税時期の変更

福島県では、例年、8月に個人事業税の納税通知書をお送りしていましたが、原則として双葉町に住所を有する方への今年度の納税通知書は、所得税の申告期限延長措置終了に伴い、12月12日にお送りする予定です。

納期限は、第一期分が平成27年1月5日、第二期分が平成27年3月31日となります。

また、複数年分の所得を申告された方には、申告年数分の納税通知書をお送りします。

減免制度など、詳しくは県税部までお問い合わせください。

【問い合わせ先】相双地方振興局県税部

課税第一チーム ☎0244-26-1126



「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」 中間報告に関する意見公募について

双葉町では、町民の有識者等からなる双葉町復興推進委員会から報告のあった「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」の中間報告について、町民の皆さまからご意見を募集しています。

この意見公募について、全世帯へ資料を郵送しておりますので、内容をご確認の上、皆さまのご意見をお寄せください。

■提出先：双葉町いわき事務所 復興推進課

■提出期限：平成26年12月14日まで

■提出方法：

①郵送資料に同封された記入様式を返送する。

②復興推進課へご意見メールを送信する。

メール：fukko@town.futaba.fukushima.jp

【問い合わせ先】復興推進課

☎0246-84-5203

定期的に内部被ばく検査を受けましょう

双葉町では、東京電力福島第一原子力発電所事故による健康不安の解消と町民の皆さまの長期的な健康管理のために、以下の内部被ばく検査を実施しています。

今年度まだ検査を受けていない方は、ぜひお申し込みください。

【問い合わせ先】

健康福祉課 健康づくり係
☎0246-84-5205

①ホールボディカウンター (WBC) による内部被ばく検査【対象者：全町民】

いわき事務所・埼玉支所では随時検査を受けられます。
いわき事務所 健康福祉課健康づくり係までお申し込み
いただくか、直接 窓口にお越しください。
受付時間 平日：午前10時から午後4時30分まで

②尿による内部被ばく検査【対象者：全町民】

この検査では、WBC 検査よりもより詳細な尿中の放射性物質質量（検出下限値はセシウム134・137ともに0.3Bq/kg）を知ることができます。

より多くの方に受検していただけるように、申し込み期間を延長しました。健康づくり係までお申し込みください。

今年度の受検申込みは、12月22日（月）までです。
なお、検体の受付は1月末までです。

③甲状腺検査

【対象者：原発事故当時39歳以下だった方】

対象の方には、受診券を7月中～下旬にお送りしています。

検査を受けられる医療機関に直接お申し込みください。*

受診券の有効期限は平成27年2月末までです。

受診券を紛失してしまった方は、再発行しますのでご連絡ください。

*ひらた中央病院での甲状腺検査をご希望の方は、健康づくり係までご連絡ください。

内部被ばく検査や健康診断・がん検診の結果は、健康手帳に大切に保管してください。

個人線量計をお使いの方へ

本年度も個人線量計の校正を予定しております。

対象となる線量計は、健康福祉課で貸出中の富士電機製のDOSE-e(下の写真)です。

対象者の方には、12月中に線量計提出のご案内・返送用の封筒等をお送りしますので、返送くださいますようお願いいたします。

線量計は精密機械です。年に一度の校正をすることで、より正確な測定ができますので必ず校正してください。



社会保険料(国民年金保険料)控除証明書について

このことについて、広報ふたば11月号の掲載内容のお問い合わせ番号に変更がありましたので、下記のとおり訂正いたします。

【訂正後のお問い合わせ先】

ねんきん定期便・ねんきんネット等専用ダイヤル

☎0570-058-555

自動音声でご案内します。自動音声案内に従って「3」を押してください。*050から始まる電話でおかけになる場合は、

☎03-6700-1144 へおかけください。

ご利用期間は平成27年3月16日までです。

【受付時間】・月～金曜日(午前9時～午後7時)

・第2土曜日(午前9時～午後5時)

*祝日(第2土曜日を除く)、年末年始はご利用いただけません。

いわき・まごころ双葉会

12月例会のお知らせ



○開催日 : 12月13日(土)

○開催時間 : 午前10時～午後3時30分
(昼食は用意いたします)

○開催場所 : 好間公民館

好間町中好間字中川原29-1

○主な内容 :

講演、ビンゴゲーム、女性コーラスのコンサート、大芸能会(歌謡、民謡等)

ふたばの味で恩返し

～霞ヶ浦まるごとグルメフェス～



▲写真2右から、かすみがうら市石川真澄副市長、伊澤町長、かすみがうら市ふるさと大使 タレント アントキの猪木さん、かすみがうら市 坪井透市長、ふるさと大使 アーティスト オニツカサリーさん

10月12日、茨城県かすみがうら市歩崎公園で「霞ヶ浦まるごとグルメフェス2014」が開催されました。

双葉町役場にはかすみがうら市から2人の職員（H26年9月まで1人、平成27年3月まで1人）が支援職員として勤務されており、町の大きな支えとなっています。このグルメフェスには、日頃お力添えをいただいている茨城県の皆さんへの恩返しの意味も込め、双葉町から「いわき・まごころ双葉会」と「ふたば茶亭」が出店しました。

天候にも恵まれ、同時開催の「かすみがうらエンデュロ（自転車耐久レース）」に出場する選手をはじめ、家族連れなどたくさんの方で賑わいました。

午前中は、伊澤史朗町長も双葉町の店頭に立ち、いわきまごころ双葉会の皆さんと共に販売や双葉町のPRをしました。

選手の皆さんにはまごころパワーの入った焼き鳥と焼きそば、遠方の方にはお土産に茶亭のお菓子。伊澤町長の自信あふれるPRと美味しい試食にたくさんの方が足を止め、双葉の味を楽しんでいました。

途中、ゲストのかすみがうら市ふるさと大使「アントキの猪木」さんも双葉町のブースに立ち寄り、雰囲気さをさらに盛り上げていただきました。

開催中は、たくさんのお客様から「双葉町応援してるよ」「頑張れ！」など温かい声をかけていただきました。双葉町と茨城県の皆さんとの交流の場ともなり、また一步前へ進むための大事な一日となりました。



生活学級（郷土文化講座） 合同現地研修

10月21日、かぞ、しらかわ生活学級合同現地研修が栃木県宇都宮市で開催され、45人の参加があり、交流を深めました。



<研修先>

- ・うつのみや遺跡の広場(国指定史跡 根古谷台遺跡)
- ・大谷資料館



▲昼食は宇都宮餃子館で和やかに話をしながらいただきました。



▲うつのみや遺跡の広場の大きな茅葺屋根の前で記念撮影

避難先周辺地域の歴史・文化を学び町民の皆さんの絆を一層深めていただくため、郷土文化講座が開催されました。

▶うつのみや遺跡の広場の資料館内でボランティアの方から説明を聞きました。



◀大谷資料館では大谷石の分布や成因特徴などを学習しました。



一人ひとりが輝いて みんながひとつになった

双葉町立幼稚園
小・中学校

梅檀祭

11月8日、町立学校体育館において「はばたけ 双葉の未来へ ぼくらの元気・勇気を届けよう」をテーマに幼稚園、小学校、中学校の合同学習発表会「梅檀祭」が開催されました。

会場の後方には、これまで授業の中で学んだことの掲示物や美術作品、壁新聞など多岐にわたる学習の成果が感じられる作品が飾られ、保護者の方が子どもたちの成長を確かめるように目を細めながら見入っていました。

オープニングは、全員が標葉せんだん太鼓保存会の指導を受けて1カ月間集中して練習してきた「天響」を演奏し、保存会の方々が見守る中、息の合った力強い和太鼓の音を会場内に響かせました。

続いて、中学1年生が総合学習の授業で勉強した双葉町に関するを紹介したり、2年生が職場体験の成果と

エピソードを元にしたクイズを会場の皆さんに出題。また、3年生の高野祐一郎くんが、福祉体験で感じた双葉町の福祉についてタブレット端末を使って自分の考えを堂々と発表しました。

幼稚園児は、手作りの忍者の衣装に身を包んだかわいらしい姿で「しゅりけんにんじゃ」の体操を元気よく披露しました。

小学生は、事故前と未来の双葉町にタイムスリップする内容の劇「双葉っ子の大冒険」を演じました。双葉海水浴場や双葉駅など、双葉町の懐かしい映像がスクリーンに映し出され、劇中子どもたちの言葉のやり取りを聞いて涙ぐむ人もいました。

子どもたち一人ひとりが双葉町について考え、双葉町を大切にしていこうとする気持ちや心のつながりが感じられる心温まる素晴らしい発表会でした。



▲オープニングセレモニー

▲エンディングセレモニー

第41回勿来地区総合芸能祭

―地域とともこ―

11月9日、勿来市民会館大ホールにおいて、第41回勿来地区総合芸能祭が開催されました。昨年に続き、今回は双葉町から3団体が出演し、会場からは温かい大きな拍手が送られました。

・J Aふたば大正琴

震災後、2カ月に一度の練習を重ねてきた皆さんは、勿来地区の方々への日頃の感謝の気持ちを込め、9人の心を一つに演奏しました。客席からは演奏に合わせて歌詞を口ずさむ声も聴かれ、会場全体が温かい雰囲気になりました。

・コーラスふたば

昨年に引き続き2回目の出演で、今年には新メンバーも加わりました。震災後、田村市の久住秀司さんが作詞した「悲しみの青い鳥」が初披露されました。震災後のやるせない気持ちと復興を願う想い、さらに県内の風物を織り込み、



つづられた詩。コーラスふたばの皆さんもより一層想いを込めて歌いました。会場には久住さんも訪れ、やわらかくも力強い旋律に乗せられた自作の詩に感慨深げに耳を傾けていました。

・ふたば音頭

民謡同好会の方が中心となり、約40人がふたば音頭を披露しました。ステージ上で輪を作り、故郷を想いながら日頃の感謝の気持ちを込めて踊りました。客席からは手拍子や掛け声があり、一緒に踊る方もいて盛り上がりました。



双葉町消防団 秋季検閲式

―士気を高めて―

11月15日、町立学校体育館において、双葉町消防団秋季検閲式が開催され、避難先から石井義幸団長をはじめとする39人の消防団員がきびきびとした態度で臨みました。

渡辺浩美訓練分団長の号令で伊澤史朗町長や来賓の方々により閲団、通常点検が行われました。

続いて伊澤町長が式辞を述べ、来賓の石本健相双葉町地方振興局長、吉田栄光県議会議員、坂本栄司県議会議員、佐々木清一町議会議長、小野田晴彦双葉警察署浪江分庁舎所長、末永孝二浪江消防署長が祝辞を述べられました。また34人の団員に対する定例表彰が行われました。

石井団長の訓示では「団員は全国に避難して十分な活動ができない状況であるが、引き続き自己研さんに励み、いつでも対応できるようにしていただきたい」と述べられました。



第26回ふくしま駅伝

ゼッケンNo.

40



全力を尽くして

11月16日、第26回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）が開催され、白河市をスタートに県庁までの95.1kmを16人の選手がタスキをつなぎました。

選手が全国各地に避難し、思うような練習ができない状況の中で、総合44位、町の部23位と昨年を上回る好成績を収めました。また最年長ランナーとして畑中高広さん（郡山）にサントリー食品インターナショナル賞が贈られました。選手の皆さん、関係者の方々大変お疲れさまでした。

監督 白土 直裕
コーチ 秋元 正人、佐藤 剛

16区 秋元 正人 (双葉町駅伝部)	15区 澤上 晶 (Jビレッジ)	14区 桑原 亘治 (西会津中)	13区 山本 良春 (クレハ化学)	12区 佐藤 剛 (福島医療専門学校)	11区 山本 葵 (白鷗大学1年)	10区 酒井啓一郎 (東北大学1年)	9区 青木恵里奈 (猪苗代町立東中2年)	8区 細澤 勇生 (柏崎市立東中2年)	7区 西崎 竜介 (会津若松三中3年)	6区 井戸川 俊 (福島大学2年)	5区 小薬 龍 (榎葉中3年)	4区 山田 兼也 (東北学院大学1年)	3区 森山 光昭 (双葉町駅伝部)	2区 畑中 高広 (双葉町駅伝部)	1区 大久保七海 (松陰大学1年)	出場選手 (敬称略)
--------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	---------------------------	-------------------------	--------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	-------------------------	-----------------------	---------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	------------

福島地方法務局からのお知らせ

田村市役所で 登記事項証明書等の交付が 受けられます

田村市役所（新庁舎1階）に登記事項証明書等発行請求機を設置し、平成27年1月5日（月）から、「法務局田村証明サービスセンター」として証明書発行業務の運用を開始することにしましたので、ぜひご利用ください。

設置場所…田村市役所（新庁舎1階）「福島地方法務局田村証明サービスセンター」

受付時間…平日（祝日を除く月～金曜日）
午前9時～正午まで、
午後1時～4時30分まで

【問い合わせ先】福島地方法務局郡山市局
☎024-962-4505

取扱業務…

- 全国の土地・建物及び会社・法人の登記事項証明書
- 全国の会社・法人の代表者事項証明書
- 会社・法人の印鑑証明書
(印鑑証明書の請求には、印鑑カードが必要となります。また、請求する際に代表者の生年月日の入力が必要です)
- 動産譲渡登記及び債権譲渡登記の概要記録事項証明書
- ※コンピューター化されている不動産及び会社等に限られます。
- ※要約書及び地図・図面等の交付は行っておりませんので、ご注意ください。

その他…

オンラインにより交付請求された登記事項証明書等を証明サービスセンターにおいて交付する取扱い（センター交付方式）も行ってまいります。

福島県からのお知らせ

原子力損害賠償に係る

巡回法律相談のご案内

福島県では、福島県弁護士会と連携し、弁護士による対面の法律相談を実施しております。相談料は無料ですので、請求手続きにおける不明な点などお気軽にご相談ください。

なお、事前予約制としておりますので、右記までご連絡いただきますようお願いいたします。

事前予約受付番号

☎ **024-523-1501**

(原子力損害の賠償等に関する問い合わせ窓口)

○受付時間：午前8時30分から午後5時15分(平日)

○相談時間：30分

(午後1時30分から午後3時50分の間に実施)

○相談料：無料

巡回法律相談実施予定 12月

実施市町村	実施日	実施会場(所在地)
福島市	12月17日(水)	福島県青少年会館 1階 第6研修室 福島市黒岩字田部屋53-5
二本松市	12月10日(水)	福島県二本松合同庁舎 2階 会議室 二本松市金色424-1
郡山市	12月10日(水)	福島県郡山合同庁舎 南分庁舎2階 第4会議室 郡山市麓山1-1-1
白河市	12月11日(木)	白河商工会議所 2階交流室 白河市道場小路96-5
会津若松市	12月2日(火)	福島県会津若松合同庁舎 本館3階 地域連携室 会津若松市追手町7-5
南会津町	12月10日(水)	福島県南会津合同庁舎 4階 会議室 南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1
南相馬市	12月11日(木)	福島県南相馬合同庁舎 北庁舎1階 県政相談室 南相馬市原町区錦町1-30
いわき市	12月10日(水)	福島県いわき市合同庁舎 4階 中会議室 いわき市平字梅本15

双葉農業普及所からのお知らせ

双葉農業普及所は、毎月県内5カ所で、避難されている農家の皆さんの相談窓口を設置しております。

窓口では、相談者の現在の状況を聞き取らせていただきながら、皆さんが必要な情報、(農産物・土壌モニタリング結果、原子力災害に対応した農業技術情報、資金・事業の紹介など)をわかりやすくご説明いたしますので、お気軽にお越しください。

12月の日程は右記のとおりです。

※町村問わずに最寄りの窓口にお越しください。

※右記以降の日程は随時お知らせいたします。

双葉農業普及所ブログ「ふたばの農業通信」に掲載しておりますので、ご利用ください。パソコン、携帯電話からご覧になれます(携帯電話のポケット料金にはご注意ください)

※相談時間：午前10時～正午

12月5日(金)	葛尾村役場三春出張所 (三春貝山多目的運動公園管理棟)
12月11日(木)	双葉町役場いわき事務所 (いわき市東田町地内)
12月12日(金)	浪江町役場二本松事務所 (二本松市平石高田第二工業団地)
12月18日(木)	富田町仮設住宅 (郡山市富田町若宮前応急仮設住宅集会所)
12月19日(金)	大熊町役場会津若松出張所 産業建設課内

【問い合わせ先】双葉農業普及所

☎ 0240-23-6474

FAX 0240-27-4747

—健康生活のススメ—

血管を若々しく



私たちが呼吸によって得た酸素や、食事から摂った栄養は血管によって全身に運ばれます。全身の血管をつなげると10万kmにも及びます。直径は3cmの大動脈から、1ミリの10分の1以下の毛細血管へ無数に枝分かれしています。健康な生活をしていても体と同じように血管も老化し、しなやかさを失い、もろくなっていきます。

血管の老化は40歳代後半からスピードを増します。そのサインは、健康診断の結果からも知ることができます。まず、血圧が高いと血管に負担がかかります。つぎに、中性脂肪やLDLコレステロールが高いと動脈硬化がすすみ、血管の内側がどんどん狭く、血管がつまりやすくなります。HDLコレステロールが低いのも同じ影響があります。最後に、血糖値が高いと血管の老化が進みやすくなります。

まだこれらの数値が正常の範囲内であっても、肥満と喫煙は血管を傷つける原因になります。特に喫煙は最大のリスクとも言われています。

70歳代になると、血管はさらに狭く、強さやしなやかさが減ってもろくなってきます。それでも、食事や運動などよい習慣を心がけることは効果があります。食事で気をつけることは、①減塩する ②野菜をたっぷりとり ③魚を食べる機会を増やす ことです。

食塩の摂取目標量（1日）は男性が9g未満、女性が7.5g未満、外食や市販の惣菜などを食べる機会が多い日には、目標量よりもかなり多く摂取していることが予想されます。成分表示を見たり、家で食べるときは野菜を加えてカサを増したりする工夫をしてください。

軽食やおつまみに何気なく口にしていくインスタント食品やスナック菓子、漬け物を減らすと、疲れにくくなったり、むくみが軽くなったりといった減塩の効果が表れるかもしれません。

このほかに睡眠不足や強いストレスも、血管に負担をかけます。喫煙や肥満も含めた日常の生活習慣は、すぐに解消できるようなものではありませんが、できることから少しずつでも取り組んでいきたいですね。

冬の寒さから血管を守りましょう！

寒い空気に触れると血管が収縮して血圧が上昇します。そのため、寒さが厳しい時期には、脳卒中や心筋梗塞の発作を起こす人が急増します。

入浴時は浴室や脱衣所を十分に暖め温度差をなくす、起床前に部屋を十分に暖めておくなどして、冬の寒さから血管を守りましょう。



かんたんレシピ

こうじ

○白身魚の塩麴マヨネーズ

【2食分】



<材 料>

- ・たら切り身 …2切
- ・塩 麴 …小さじ2
- ・マヨネーズ …大さじ2

<準 備> 塩麴とマヨネーズは合わせておく。たらの水気をふき取っておく。

<作り方>

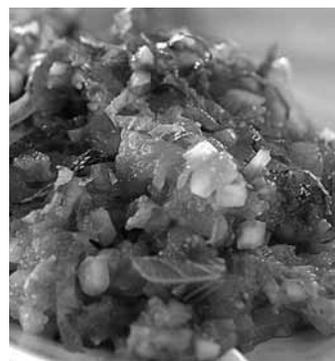
①アルミホイルにたらをのせて、混ぜ合わせた調味料をぬり、オーブントースターで焼く。

※塩麴は魚や魚のたんぱく質を分解するため、アミノ酸などのうま味を増したり、軟らかくするなど効果があります。

※塩麴の塩分は12～13%でみそとほぼ同じです。使いすぎないように注意してください。

○サーモンのなめろう

【2食分】



<材 料>

- ・サーモン
(刺し身など生食用) …140g
- ・みそ …小さじ2
- ・ごま油 …小さじ1/2
- ・しょうが …1かけ
- ・いりごま(白) …小さじ1/2
- ・ねぎ・水菜・きゅうりなど …各30g程度

<準 備>

しょうがはすりおろす(チューブのものを使ってもよい)。

ねぎはみじん切り、きゅうりは千切り、水菜は食べやすい大きさに切っておく。

<作り方>

① サーモンは1/2量を包丁でたたき、1/2量は1～2cm角に切る。

② ①にみそとごま油を加えて混ぜる。野菜とその他の材料を加えて混ぜる。

生涯学習で 自分みがき・仲間づくり

教育総務課生涯学習係事業開催のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土
1		2	3	4	5	6
生活学級 婦人学級 の日程		☆そうま・みなみそうま生活学級 (南相馬市) タブレット教室 原町生涯学習センター研修室 10:30～12:00	◇つくば生活学級 (茨城県つくば市) 防災講座 並木交流センター 14:00～15:30	☆こおりやま生活学級 (郡山市) 陶芸教室 せんだん広場 10:00～12:00		
		○すみれ婦人学級 (いわき市南台) だるま市作品作り ○梅檀婦人学級 (福島市) ブローチ作り アオウゼ大活動室1	○桜婦人学級 (いわき市) 作品作り	☆しらかわ生活学級 (白河市) タブレット教室 郭内応急仮設集会所 13:30～15:00		
7	8	9	10	11	12	13
12/7 ○ふたば婦人学級 (会津若松市) お茶会						
14	15	16	17	18	19	20
☆あいづ生活学級 (会津若松市) タブレット教室 城前応急仮設集会所 13:30～15:00		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 生活学級 ☆は、「生きがい・趣味講座」です。 ◇は、「防災講座」です。 </div>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 100px;"> 婦人学級 ○は、婦人学級です。 </div>						
21	22	23	24	25	26	27
○しらゆり婦人学級 (南相馬市) フラワーアレンジメント 12/21 ○さくら生活学級 (つくば市) リース作り・忘年会		☆いわき、みなみだ い合同生活学級 (いわき市) クリスマスコンサート 双葉町役場いわき事務 所大会議室 14:00～14:45		○はなみずき婦人学級 (加須市) 生け花 ○たんぽぽ学級 (郡山市) フラワーアレンジメント せんだん広場	○ひまわり婦人学級 (白河市) フラワーアレンジメント	
28	29	30	31			

＜お申込みについて＞

各学級に参加ご希望の方は生涯学習係までご連絡下さい。

第27回双葉町総合美術展
町民作品展覧会(郡山会場)

12/2(火) 13:00～17:00
12/3(水) 10:00～15:00
郡山ビッグアイ6階展示室

【問い合わせ先】双葉町教育委員会 教育総務課生涯学習係

0246-84-5210

～社会福祉協議会サロンのお知らせ～

平成26年度も福島県内外において社会福祉協議会サロンを開催しています。

双葉町民の交流や情報共有及び心身のリフレッシュを兼ねて、日常生活の糧へと繋がるような楽しい時間を一緒に過ごしましょう。



12月開催予定日

開催場所	住所・連絡先	開催月日	時間
白河市郭内第二応急仮設住宅 D2-4	白河市郭内 151-29 080-6290-5930 (担当: 開発)	毎週水・金	9:30 ~ 11:30 13:30 ~ 15:00
双葉町コミュニティ施設 せんだん広場	郡山市御前南2丁目73 024-983-1861	12月22日(月)	14:00 ~ 15:30
郡山市 富田町若宮前応急仮設住宅集会所	郡山市富田町字町田11 024-983-9420	12月22日(月)	10:00 ~ 11:30
郡山市 喜久田町早稲原応急仮設住宅集会所	郡山市喜久田町早稲原字上ノ端54-4 024-983-9590	12月9日(火)	10:00 ~ 11:30
白河市 郭内第二応急仮設住宅集会所	白河市郭内 151-29 0248-27-2324	12月9日(火)	10:00 ~ 11:30
福島市さくら応急仮設住宅談話室	福島市さくら1丁目10-1 024-593-6511	12月18日(木)	10:00 ~ 11:30
福島市 北幹線第二応急仮設住宅集会所	福島市飯坂町平野内小田原8-1 024-573-2598	12月18日(木)	13:30 ~ 15:00
南東北総合卸センター 2階第6会議室	郡山市喜久田町卸1丁目1-1 024-973-5291	12月2日(火)	10:00 ~ 14:00

【問い合わせ先】双葉町社会福祉協議会 郡山事務所 024-973-5291 【担当: 泉田】

双葉中学校99年卒業の皆さまへ
(昭和58年4月~昭和59年3月生まれ)

同窓会のお知らせ

来年1月に女性の厄流しを兼ねて同窓会を開催することになりました。ご家族の中に昭和58年4月から昭和59年3月生まれの方がいましたらお伝えくださいますようお願いいたします。

日時 平成27年1月2日(金)午後1時30分~
女性の方で厄流しに参加する場合は12時集合
場所 ホテルプリシード郡山(郡山駅より徒歩)
福島県郡山市中町12-2 024-925-3411
会費 同窓会 5,000円

厄払い参加者はプラス5,000円

ホテル宿泊の方 シングル6,800円、ツイン13,600円

同窓会開催のお知らせはすでに郵送しておりますが、届いていない方は12月20日までに下記メールアドレス宛てに連絡をお願いいたします。

なお、今回参加できない方の今後のために、住所等をご連絡いただくと助かりますので、よろしく願いいたします。

【幹事】 富沢 徳 futaba_1999_3@yahoo.co.jp

相双こども科学祭2014

「遊び」ながら「ものづくり」や
「科学」を楽しく学ぼう!

第3回となる「相双こども科学祭2014」が開催されます。

3Dプリンタによるスタンプ作りや人型ロボット「PARLO(パルロ)」との対話もできます。申し込みは不要で、参加は無料です。

当日は、「なみえ焼きそば」や「マミーすいとん」の屋台もです。

屋台のふるまい(無料)は数量限定です。

日時...12月6日(土)

午前10時~午後2時

会場...テクノアカデミー浜(南相馬市)

対象...小学生及び中学生

【問い合わせ先】

福島県相双地方振興局 企画商工部

0244-26-1142



全国に避難されている皆さんから寄せられた
お便りの一部をご紹介します

規制緩和への期待

仲秋の候と相成りました。あの日から早くも3年半が経過し、「光陰矢の如し」を実感しております。

懐かしい「ふるさと双葉」の風景は、今も臉から消えることはありません。特に田園から眺めた阿武隈の山並み、そして360度俯瞰して見た田園風景を忘れることはありません。

震災後しばらく須賀川市での避難生活でした。その間、関係者の方々には大変お世話になりましたが、そのご恩に何らお返しも出来ずにいわき市に引越し、約2カ月半になりました。

この住居は「双葉町役場いわき事務所」にも近く、なんとなく心に安らぎを感じております。

住宅は、大手の住宅メーカー設計・施工のスマートハウスで、屋根に設置された太陽光パネルで電力に変換し、その再生可能エネルギーを利用した、ハイテクなシステムを導入しております。引き渡しは6月26日でしたが、ようやく去る9月19日に東北電力との待望の「系統連系契約」も終わりました。日中の余剰電力は自動的に東北電力に売電となりますので、日中「スマートメーター」でデータを確認するのが楽しみです。しかしながら一部の電力会社では、メガソーラー設置業者との契約を拒否するような動きが出ていることは誠に遺憾であり、これを許すべきではありません。一日も早く「送電・配電設備」を独立した事業者任せにすべきであり、政府・経済産業省もこれを一日も早く実現することが重要であると考えております。「規制緩和」がこれから我が国の経済再生への大きな課題であります。安倍政権の決断を期待しております。

平成26年10月

古室 仁

注：我が家の10月分電力料金 ￥6,082
販売電力代金 ￥8,474

過ぎ行く秋 雑感

- ・秋雨に 衿を立てるか そぞろ寒
- ・秋雨に 何を漁るのか 雨蛙
- ・秋雨に 急ぐ足許 水溜り
- ・虫の声 途切れ途切れで 秋過ぐる
- ・連雀 日暮れ間近かの 一周り

武内 恒雄（長塚二）

- ・白波の 六角堂に 鱒雲いわしぐも
- ・鳳仙花ほうせんか 和気あいあいの ストレッチ
- ・うき出でて 雨に暮れにし 白粉花

遠藤 シゲヨ（長塚一）

- ・わくら葉の ちぎれ重なる 水溜まり
- ・曲がり角 曲がれば展ける 秋桜畑あきざくら
- ・新蕎麦の のぼり新たに 奥秩父

藤田 博司（下条）

人のうごき10月分

お誕生おめでとうございます

氏名	生年月日	保護者	行政区
朝田 莉央 <small>あさた りお</small>	9月27日	正幸・富士子	寺松
大井川未羽 <small>おおいがわみう</small>	10月10日	彰啓・里奈	新山

お悔み申し上げます

氏名	年齢	死亡日	行政区
吉見 榮子	72	10月1日	三字
齋藤 重朝	89	10月17日	新山
池田 忠	78	10月20日	長塚一
志賀 牧男	65	10月23日	長塚一
川崎 芳子	65	10月24日	新山

双葉町民の避難状況

(平成26年11月4日現在)

- ・福島県内に避難されている方 4,075人
- ・福島県外に避難されている方 2,952人

※平成23年3月11日時点の住民基本台帳人口から死亡者を引き、出生者と転入者を加えた人口を示しています。

連絡のついた方で、了承の得られた方のみ出生、死亡の方の名前を掲載しています。

なお、掲載を希望しない場合は秘書広報課までご連絡ください。 0246-84-5202

双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もなお全国に分かれて避難生活を送っています。

先の見えない不安な生活の中で、町民の皆さんが毎日どのような思いで過ごし、ふるさと双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さんの声をお聴ききしながら「ふるさと絆通信」として連載していきます。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さんの双葉町への思いと心の絆がより一層深まることを期待いたします。

記録として次の世代へ きずな ふるさと絆通信

第19号



「ふるさと絆通信」であなたの 想いを伝えてみませんか。

ふるさと絆通信では、避難されている皆さんへ想いを伝えていただける方を募集しています。避難生活での活動や日々の生活の中で感じていること、ふるさと双葉町への想いをこのコーナーでお話ください。双葉町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

【問い合わせ先】秘書広報課
☎ 0246-84-5202



ずっと、ふるさと。双葉町。

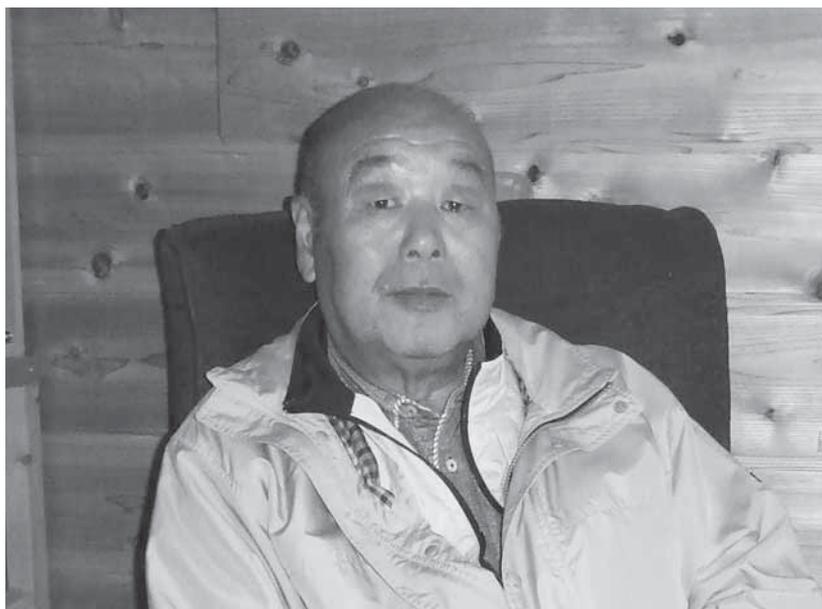
ほりい ごろう
堀井 五郎 さん

(鴻草)



●避難先●

福島県福島市



福島市にある北幹線第一仮設住宅の自治会長を務めさせていただいております。こちらでの生活は3年以上となりましたが、入居当初と同じ町民同士とはいえ、どの地区の誰なのか、お互いに分らない状態でした。そこで、住宅の玄関にある表札に双葉町での住所を併記することにしました。すると、直接は知らなくとも、親戚・遠戚関係にあつたり、兄弟の同級生・友人だつたりと、互いに「知り合う」きっかけとなりました。プライベートなどの課題があり、強制することはできませんでしたが、一定の効果はあつたのではと思っています。入居開始当初80近かった入居世帯数は、現在はその半数以下となっています。仮設住宅から出ることは、多くの場合、生活再建や自立への一歩となつていくことは間違いありませんが、日々、静かになり、寂しいような感じさえします。

そんな中、住宅内に一人で居ると、うつになつてしまふそうです。引きこもつては心も体も駄目になってしまいます。そこで私は、特に用事が無くても、なるべく外に出て歩くようにしています。

今年に入つて、災害公営住宅の整備や、福島県が中間貯蔵施設建設受け入れを表明するなど、私たちをめぐる状況が出てきています。特に、災害公営住宅は、日々の暮らしに直結する問題だけに、目が離せません。先日は、南相馬市で同市小高区等からの避難者に向けた災害公営住宅の説明会に参加し

てきましたが、行政から示された計画は、単なる集合住宅の建設計画としか思えないものでした。もし、そのような無機質な計画が町にも持ち込まれたら一体どうなるのかと考えると、不安と心配が募ります。

また、同説明会では、旧山古志村(現・新潟県長岡市)の復興住宅のモデルを見せていただきました。同村では、集会場や公園など、皆で集える施設を中心にして、その周囲の歩いて行ける範囲に住宅を点在させるというものでした。団地方式のコンクリートの塊ではありませんでした。同村の実情に合ったものだなと感じさせられました。

災害公営住宅は、将来への希望を持てる生活のために重要であり、双葉町の実情に合った住宅が建設されるべきだと思っています。例えば、当町民の多くは農業に携わってきました。そこで、土に触れ合える、野菜や花を育てられるような住宅があれば、心も体も少しは安らぐのではないのでしょうか。

この仮設住宅は、60歳代半ばの私ですら「若い世代」になつてしまふほど、超高齢化となつています。多くの方が、電球の取り換えにも難儀する状態です。今後、災害公営住宅の整備が進む過程で、これまでのコミュニティが解体を余儀なくされてしまうでしょう。住宅建設の大切なことですが、こうした仮設住宅に生活するお年寄りへの配慮も十分に持つて欲しいと願っています。



きくち やすし
菊地 安さん

(山田)



●避難先●
福島県白河市

私は、若い頃から山田芸能保存会に参加し、現在、会長を務めさせていただいております。じゃんがら念仏踊りや神楽、八木節などの地域芸能を継承してきました。避難するまでは、毎年、小学校が夏休みに入る7月から、子どもたちと共に、盆踊り、太鼓や笛などの練習を始め、8月の旧盆には、地区内の家々を回り、盆踊りやじゃんがら念仏踊りを披露させていただいてきました。

私は中学校を卒業後、いわき市内での修行を経て双葉町に戻り、大工として働いてきました。被災後しばらくは、身を寄せた先や白河市内の借上げ住宅から現場に通っていましたが、仕事の多くはいわき地区で、長距離・長時間の通勤も負担でした。

避難後、水戸市内の長男一家を経て、白河市に移りました。若いころから、大工仕事と農業に、ほぼ毎日、体を動かし続けてきたためか、何もできない時間ほど辛いものはありませんでした。そんな中、平成23年秋、仮設住宅におけるサポートスタッフの求人を見つけ、同じ境遇にある皆さんに、少しでもお役に立てればという思いで応募し、採用されました。こちらでは、人材派遣会社に採用され、郭内仮設住宅のスタッフとして配属されています。

震災発生から1周年の日、白河市で慰霊祭が開かれました。偶然にも、その慰霊祭の主催者の責任者が勤務している派遣会社の代表

者という縁で、供養の一環として、じゃんがら念仏踊りをという声がかかりました。早速、一時立入で持ち出した太鼓などを用意し、山田芸能保存会として震災後の初舞台を飾ることができました。

その後も、双葉町や県からイベント参加のお話をいただき、可能な限り参加させていただいております。今年は、六本木ヒルズ(東京・港区)で開催された盆踊り大会にも、子どもたち2人と共に参加してきました。盆踊り前の舞台で2度、じゃんがらを披露しましたが、あまりの人の多さに恐縮してしまいました。震災前は個人宅を回って歩いたり、少人数を前に披露する程度でしたが、避難後、活動を再開してからは、大舞台の連続です。その一方、メンバーはバラバラになってしまっており、なかなか集まって練習することができません。ここ十数年、時代の変遷の中、私たちの地域でも失われた伝統芸能がありますが、この震災がきっかけで拍車がかかってしまいました。幸い、じゃんがら念仏踊りは、最小限のメンバー数ながらも、継承することができています。

当面、故郷への帰還は望めない中、祖先から受け継いだ「伝統芸能」は残さなければならぬと思います。故郷は追われませんが、地域の絆、地域の心まで失うわけにはいきません。今後も、保存会の活動を通して、次世代に故郷を残していきたいと思っております。

※写真の右上枠内は被災後に持ち出した太鼓など

はやし ひでこ
林 日出子 さん

(細谷)



● 避難先 ●
埼玉県加須市



私は、町内下条で生まれ、細谷に嫁ぎました。子育てをしながら夫とともに農業に汗を流す日々でした。双葉町は82年間の思い出がある故郷です。平成15年、6年間の介護生活の末に夫は他界しました。その後も元気なうちは自立していこうと一人で生活していましたが、長男一家は前田地区で、孫一家は長塚地区でそれぞれ独立していたため、寂しく思うことはありませんでした。

被災後、私は神奈川県平塚市にある弟一家、避難所となった旧騎西高校を経て、現在は加須市内の借上げ住宅で生活しています。

加須市に移ってからは、ボランティアの方々の助けを借りながら、サロンや合唱団に参加するなど、楽しく忙しい日々を送っています。特に、その合唱団「ニコニコ『含笑』団」では、地元の合唱団の協力を得て、コンサートに参加するなど、大舞台に立つこともできました。

旧騎西高校で生活している時にボランティアで来場していた白鷗大学の教員や学生の皆さんと知り合い、世代や立場を超えた交流を図り、大きな刺激となりました。特に、政治評論家としてテレビでよく拝見していた、同大学の教授で政治学者の福岡政行氏と懇意にさせて頂き、様々な角度で世界を見る眼を広げさせて頂きました。避難後、年齢的にも、これで終わりがなと悲観的になったこともありましたが、体さえ元気であれば、こ

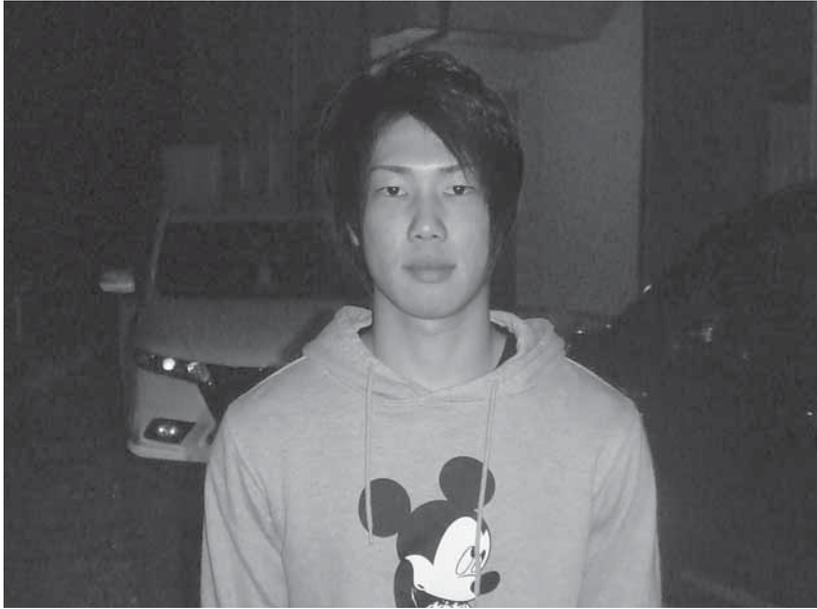
うした出会いもあり、世界も広がると、人生に気が合いが入ったような感じでした。

町を離れて間もなく4年目になりますが、身体の健康維持だけは何としても保ちたいと思っています。プランターで花や野菜を作ってみたり、毎日何かしらの予定を入れ、できる限り外へ出ていくようにしています。この10月には自分の目で津波被災地を確認するために、宮城・岩手両県沿岸部にある被災地を巡る復興ツアーにも行ってきました。また、来年1月11日には、加須市からのシャトルバスでダルマ市を訪れる予定です。同祭が行われる南台仮設住宅とその周辺には、古くからお付き合いを続ける友人・知人が多く、再会できるのも楽しみです。

今年、ボランティアの皆さんの勧めと助けを借り、「自分史」を作りました。勧められたときは、「コッパズカシイ」気持ちもありましたが、戦中戦後からこの震災までの経験を残すことも大切だと思い、思い切って筆を執りました。

中間貯蔵施設が建設されれば、自宅のある細谷地区は姿を消すことになってしまい、残念ではありますが、そうした私たちの犠牲が「将来と復興への希望」になればと願います。また、同施設建設後も、せめて、「大好きな双葉町」の姿を見に行くことや、先祖の眠る地に自由な墓参りぐらいはさせて頂きたいと願います。

※写真左上枠内は自分史「人生喜怒哀楽いきぬく」



かとう ゆうき
加藤 裕樹 さん

(山田)



●避難先●
福島県いわき市

私は、浪江高校の1年生に在学中、震災に遭いました。大地震と大津波、そして、原発事故による避難を強いられ、当初、家族、学校、そして自分の将来はどうなってしまうのか、不安以外の何ものもありませんでした。避難後、一時、県外で生活したこともありましたが、通学先がサテライトで開校されることになり、福島市内で生活しながら通学し、昨年3月に卒業し、その4月、現在の勤務先に就職しました。

私の勤務先は東工株式会社(本社・神奈川県大和市)です。この会社名を目にして、お気づきの方が少なくないと思いますが、被災以前は双葉町内の工業団地で双葉工場として操業していました。被災以降は福島工場として、いわき市内に移転しました。

勤務先の主な営業品目は、金属加工製品の製造等です。しかし、私は普通高校出身のため専門的な技術を持っているわけでもなく、社内を飛び交う言葉すら、初めのうちは全く分かりませんでした。右も左も分からない状況でしたが、先輩方の指導のもとで、頑張らせて頂いています。

現在、私はプレスオペレーターとして、自動車の部品などを製造しています。ちょっとした油断や見落としが不良品を発生させる原因になってしまいます。それだけでなく、自動車部品のため、製品のつひとつが、最終製品である自動車に乗られる方の安全に関わり

ます。入社前にはそうした自覚はありませんでしたが、仕事を覚えるにしたがつて、自分に課せられた責任の重さを実感するようになりました。勤務先の上役からは、普通高校出身で何も分らないからこそ、ゼロから覚えられと言葉をかけられたこともあり、恥ずかしながら、社会人になって初めて、物事に「謙虚に臨むこと」とはどういうことを、少し分ったような気がします。また、学生の時は、友達関係が中心の「横の繋がり」が重視される世界なのに対して、社会に出ると、会社内の上司や先輩、そして、お取引先様など「縦の繋がり」が重視されます。入社2年目でまだ、慣れることや覚えることで精一杯ですが、先輩方の指導の下で経験を積み、職制(管理職)に昇進できるよう、努力を続けたいと思います。

来年は社会人3年目、そして成人式を迎えますが、その多くは大学や専門学校に在学しており、同じように就職した同級生に会ったことはありません。縁あって、成人式の実行委員を務めさせていただきますが、震災と原発事故によりバラバラになってしまった仲間を、同じ故郷という絆でまた一つになりたいと思っています。

今年9月、高校生の時から交際していた女性と今後を共にすることになり、入籍しました。社会人としてだけでなく、これからは、間もなくこの世に生を授かる子どものために父親としても、将来に向けて一歩ずつ進んでいきたいと思っています。

わたなべ まさよし
渡部 正義 さん

みえこ
三重子 さん
(長塚一)



●避難先●
埼玉県加須市



「筆一本さえあれば、心が伝わる。」
書に携わる者として、突然の避難とはいえ、その一本すら持ち出せなかったことに、どれだけ心が痛んだか。そうした思いから、あと数カ月で4年目を迎えようとしています。双葉町では、書道教室と書道用品店を営みながら、書家としての活動を行っていましたが、避難後しばらくは、それまでの40年間の歩みを一瞬にして奪われたことへのショックで、心身ともに打ちのめされた状態でした。

私は、妻そして、私と妻それぞれの母たちと共に、加須市内の借上げ住宅で生活しています。両母ともに90歳代です。避難前は両母ともに元気でしたが、故郷を追われてからは体調を崩し、完全な要介護状態となっていました。夫婦で「老々介護」を続けながら、細々とはありますが、所属する書道団体の仕事に携わるなど、書道家としての活動も再開しました。

旧騎西高校での避難生活が始まって約1カ月経った頃、加須市内にある花崎保育園が保育士への書道の指導者を募集する求人があり、周囲の方の勧めもあり応募したところ採用となり、週1度のペースで教え始めました。すると、それがマスコミに取り上げられ、記事等を目にした全国の書道関係者・愛好者の皆さんから、筆をはじめ数多くの書道用品が寄贈されました。書道を教えられることや、多くのご支援をお寄せいただいたことは、感謝に堪えません。そして、そうした応援のお

気持ちだが、私に再び書道家としての命を吹き込んで下さったものと感じています。

その後、避難所で生活する皆さん向けに書道教室のボランティアを行いました。避難により、何もできなくなってしまう方が多い中、筆を執ることで、少しは気持ちが楽になった方もいるのではないかと思います。また、加須市内にあるNPOが運営する避難者支援サロンでは、この9月末まで教室を開かせて頂きました。その教室では、生徒さんの多くが、双葉町からの避難者を取材に来ていた新聞記者の方々でした。意外なことではありませんが、今になって思うと、職業柄、忙しい生活を送る中で書道が心の安らぎの一つになったのかもしれない。

避難により、私たち夫婦の「老後」は先行き不透明になってしまいましたが、故郷の復興への希望と、震災の犠牲者、そして、この世を見守ってくださるご先祖様たちへの供養を兼ねて、十三仏の掛軸づくりに挑戦しています。ひと筆ずつ、時間がかかる地道なことです。が、「二筆一念」で、今後の人生の目標に続けようと思います。



大日如来像を描いた掛軸

ぼくの夢・わたしの夢



こはた まほ
郡山市立行健小学校6年 木幡 眞歩 さん(鴻草)

東日本大震災から4年が経とうとしています。でも、心の中にある震災の恐怖は消えそうにありません。この震災ではつらい思いもしましたが、貴重な経験もたくさんしました。

避難所では、自分だって大変なのに私たちのために食事を作っている人たちの姿を見て「人の役に立って人を笑顔にできる仕事につきたい」と強く思うようになりました。なので私は、看護師や介護士になって病气の人やお年寄りの方の力になりたいです。自分が関わることで、少しでも元気になったり笑顔になったらうれしいですね。

夢が叶うまでは楽しいことだけではないはずですが、でもそんな時は、震災の経験で得たことを思い出し、夢に向かって歩きたいです。

また、住み慣れた双葉町に戻ることはまだまだできませんが、大切なふるさとのために何かできることを考えてみようと思います。

早いもので、平成26年の最後の月、師走を迎えました。今月の表紙は、自転車競技でオリンピックに2大会連続で出場し、今年のアジア大会において、銀と銅の2つのメダルを獲得するなど国際的に活躍している渡邊一成選手(新山)が町立学校を訪問し、子どもたちからの質問に答えている一場面です。渡邊選手は子どもたちに、「勉強でも遊びでも夢中になれることを一生懸命やってほしい」と語りかけました。また「応援してくれる皆さんに良い結果を報告することがこれからの目標」と話す渡邊選手。自分の目標に向かって努力を続ける渡邊選手の言葉は子どもたちの心に深く刻み込まれたのではないのでしょうか。渡邊選手のますますのご活躍をお祈りいたします。

冬が足早にやってきて急に寒くなりました。皆さま、お体に気をつけて元気に新しい年を迎えられますように…。

編集後記



今月のベストスマイル



ふくしま駅伝で11区を走った山本葵さん(写真右:石熊)、と1区の大久保七海さん(左:山田)の笑顔です。

やまもとあおい

おおくほななみ

連絡先

○いわき事務所 〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19-4
☎ 0246-84-5200 FAX 0246-84-5212、0246-84-5213
✉ futaba@town.futaba.fukushima.jp

○郡山支所 〒963-8024
福島県郡山市朝日一丁目20番2号
☎ 024-973-8090
FAX 024-933-5120
✉ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

○埼玉支所 〒347-0105
埼玉県加須市騎西36番地1 加須市騎西総合支所1階
☎ 0480-53-7780
FAX 0480-53-7266
✉ saitama@town.futaba.fukushima.jp

○双葉町公式ホームページ <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/>
携帯サイト <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/m/>

○双葉町公式フェイスブックページ つなげよう つながろう ふたばのわ
<http://facebook.com/fukushima.futaba>

